

# 拾六町ツイジ2

— 拾六町ツイジ遺跡第3次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1079集

2010

福岡市教育委員会

JYU ROKU CHO

# 拾六町ツイジ2

じゅうろくちょう

## —拾六町ツイジ遺跡第3次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1079集



調査番号 0830  
調査略号 JRT-3

2010

福岡市教育委員会

## 序

海に開かれたアジアの交流拠点都市づくりを目指す福岡市は、大陸文化の受入口として古来より繁栄してきました。市内には貴重な文化遺産が数多く残されています。それらを保護し、後世に伝えることは私たちの義務です。

今回報告する拾六町ツイジ遺跡は、西区上山門1丁目に所在する遺跡です。昭和55年から56年にかけて行われた城原小学校建設に伴う調査が最初で、弥生時代前期初頭から古代にかけての水田などの遺構が検出され、多量の木製品が出土しています。今回の調査は講堂兼体育館建替えに伴う調査です。

本書が、市民の皆様の文化財保護に対するご理解の一助となるとともに、学術研究、文化財保護の普及啓発活動に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査とその整理・報告に際しましては、事業担当の教育委員会施設部施設整備課、城原小学校をはじめとして、関係各位のご協力に対して、厚く感謝の意を表します。

平成22年3月23日

福岡市教育委員会  
教育長 山田 裕嗣

## 凡例

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が城原小学校講堂兼体育館改築に伴い、福岡市西区上山門1丁目27番1号で、平成20(2008)年度に調査を実施した拾六町ツイジ遺跡第3次調査の報告書である。
- (2) 発掘調査は上記の主体により行われ、調査は山崎龍雄が担当して行った。
- (3) 遺構・遺物の実測と写真撮影は山崎が行った。
- (4) 本書に使用した図面の説明は山崎が行った。
- (5) 本書に使用した方位は磁北であり真北とは $6^{\circ}18'$ 西偏する。
- (6) 本書Fig.1の調査区位置図は平成6年3月作成の「福岡市文化財分布地図 西部I」を使用した。
- (7) 土層・遺物の色調の記録については新版標準十色帖を使用した。
- (8) 調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。
- (9) 本書の執筆・編集は山崎が行った。

### 調査基本情報

遺跡名	拾六町ツイジ遺跡	調査次数	3次	調査略号	JRT-3
調査番号	0830	分布地区図幅名	No.103 長慶	遺跡登録番号	2475
申請地面積	990m <sup>2</sup>	調査対象面積	157m <sup>2</sup>	調査面積	248m <sup>2</sup>
調査期間	平成20(2008)年8月4日-8月25日			事前調査番号	19-1-79
調査地址	福岡市西区上山門1丁目27番1号				

## 本文目次

第1章 はじめに .....	1
1 調査に至る経緯 .....	1
2 調査の組織 .....	1
第2章 遺跡の立地と第1次・第2次調査の概要 .....	2
1 遺跡の立地 .....	2
2 第1次・第2次調査の概要 .....	5
第3章 調査の記録 .....	6
1 調査の概要 .....	6
2 調査の記録 .....	6
① 遺構面の調査 .....	6
② 1号・2号トレンチ .....	6
3 まとめ .....	12

## 挿図目次

Fig.1 調査区位置図(1/5,000) .....	2
Fig.2 拾六町ツイジ遺跡と周辺の遺跡(1/25,000) .....	3
Fig.3 拾六町ツイジ遺跡周辺航空写真(昭和23年米軍撮影) .....	4
Fig.4 調査区から北を臨む(南から) .....	5
Fig.5 各調査地点位置図(1/1,500) .....	7
Fig.6 調査区周辺測量図(1/600) .....	7
Fig.7 遺構全体図(1/200) .....	8
Fig.8 遺構検出状況(南から) .....	9
Fig.9 遺構検出状況(東から) .....	9
Fig.10 各トレンチ土層図(1/100-1/60) .....	10
Fig.11 1号トレンチ(南西から) .....	10
Fig.12 1号トレンチ土層状況(南から) .....	11
Fig.13 2号トレンチ(西から) .....	11
Fig.14 2号トレンチ西側土層状況(南から) .....	11
Fig.15 同 東側土層状況(南から) .....	11
Fig.16 扰乱・トレンチ出土遺物(1/3・1/2) .....	12
Fig.17 同 遺物写真(縮尺不統一) .....	12
Fig.18 今宿・下山門周辺城館分布状況(1/25,000) .....	14

# 第1章 はじめに

## 1. 調査に至る経緯

平成19(2007)年10月1日付けで、教育委員会総務部（現施設部）施設整備課より、福岡市西区上山門1丁目27番1号に所在する城原小学校講堂兼体育館の改築工事を行うための、埋蔵文化財事前審査依頼（事前審査番号19-1-79）が埋蔵文化財第1課に提出された。工事計画範囲は小学校建設に伴って調査を行った拾六町ツイジ遺跡第1次調査区と重複していたが、一部未調査部分があり、その部分について建物解体後、調査することとなった。解体は当初6月末で終了し、その後、調査を行う予定であったが、解体終了が1ヶ月遅れ、8月初めの調査着手となった。新講堂で卒業式を行うという予定のため、工期は決まっており、その分調査期間が圧縮された、あわただしい調査となった。安全対策など現場の条件整備は施設整備課が行い、発掘調査にかかる諸経費も施設整備課から令達を受けた。

本調査は平成20年8月4日から開始し、8月25日迄行った。調査実施面積は申請面積990m<sup>2</sup>中の248m<sup>2</sup>である。調査報告書作成作業は平成21年度に実施した。

調査にあたっては、教育委員会総務部（現施設部）施設整備課、城原小学校、工事関係の方々に多大な協力を受けた、記して感謝の意を表する次第である。

## 2. 調査の組織

調査の組織は以下のとおりである。

調査委託	福岡市教育委員会総務部（現施設部） 施設整備課
調査主体	福岡市教育委員会埋蔵文化財第2課
調査總括	文化財部埋蔵文化財第2課長 田中寿夫 埋蔵文化財第2課調査第1係長 杉山官雄
調査庶務	文化財管理課管理係 古賀とも子
事前審査担当	埋蔵文化財第1課事前審査係 星野恵美
調査担当	埋蔵文化財第2課主任文化財主事 山崎龍雄
調査作業	浅井伸一 井上正通 榎田信一 栗木昭孝 近藤由美 真田弘二 茂末加世子 土橋一則 徳永洋二郎 中村秀策 西野光子 森下初美 森弘品子
整理作業	井上朝美

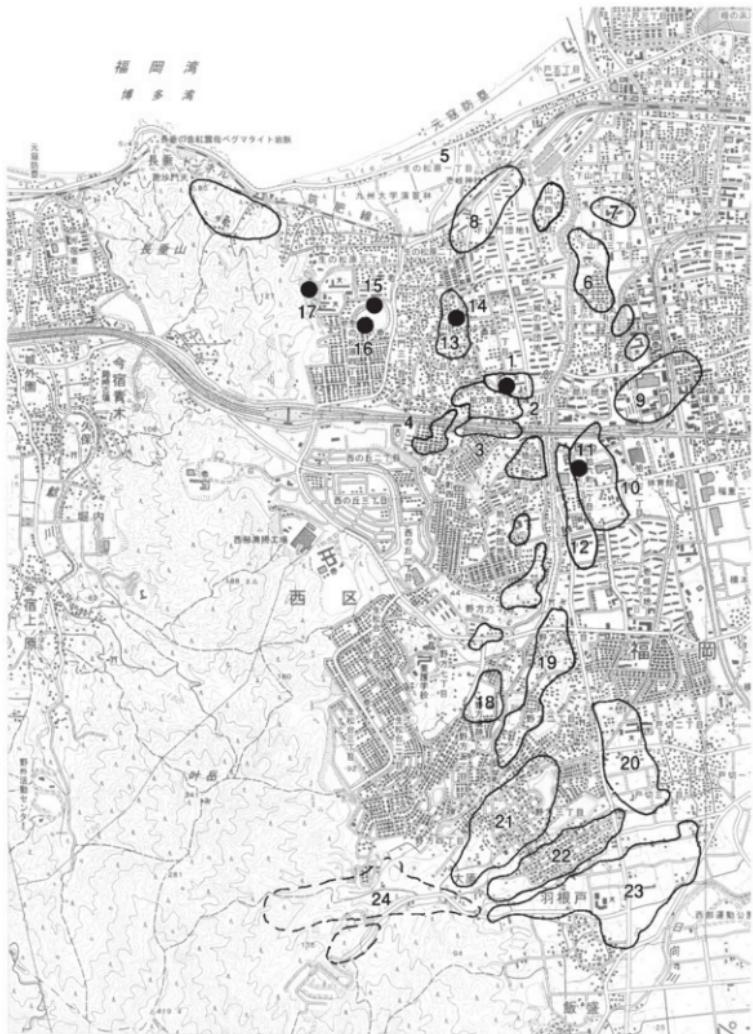
## 第2章 遺跡の立地と第1次・第2次調査の概要

### 1. 遺跡の立地 (Fig.2・3・18)

遺跡の立地・歴史的環境については、第1次調査報告書(福岡市埋蔵文化財報告書第92集 1983)で詳しく述べられているので、それに基づいて記述する。遺跡は室見川を中心とした大小の河川によって形成された早良平野の北西端にあたり、その標高は約5mを測る。遺跡は十郎川の西約180m、生ノ松原の海岸線から約1.8km南側に位置する。遺跡西から南側は叶ヶ岳、長垂丘陵から延びる低丘陵となる。遺跡周辺の遺跡については、北側には下山門団地建設に伴って調査された下山門遺跡があり、古代の条里遺構の検出と古墳時代祭祀遺物や、中国産越州窯青磁などが出土している。東側では十郎川東側に弥生時代から中世にかけての十郎川遺跡や下山門敷町遺跡、下山門乙女田遺跡などがある。西側丘陵部には草場古墳群など古墳時代後期の群集墳が分布し、また斜が浦瓦窯跡などがある。南側は今宿バイパス建設に伴って調査された湯納遺跡や宮ノ前遺跡が立地する。



Fig.1 調査区位置図 (1/5,000) 0375 大林遺跡 0384 湯納遺跡  
0372 下山門南A遺跡 0508 城の原遺跡



- |             |             |             |            |             |
|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 拾六町ツイジ遺跡 | 2. 大林遺跡     | 3. 湯納遺跡     | 4. 宮の前遺跡   | 5. 国史跡元寇防塁  |
| 6. 下山門敷町遺跡  | 7. 下山門乙女田遺跡 | 8. 下山門遺跡    | 9. 拾六町平田遺跡 | 10. 拾六町鬼田遺跡 |
| 11. 一町屋敷跡   | 12. 半多田遺跡   | 13. 城の原遺跡   | 14. 城の原應寺  | 15. 斜が浦瓦窯跡  |
| 16. 斜が浦製鉄遺跡 | 17. 草場古墳群   | 18. 国史跡羽野遺跡 | 19. 野方久保遺跡 | 20. 戸切遺跡    |
| 21. 羽根戸原A遺跡 | 22. 羽根戸原B遺跡 | 23. 羽根戸原C遺跡 | 24. 羽根戸古墳群 |             |

Fig.2 拾六町ツイジ遺跡と周辺の遺跡 (1/25,000)



Fig.3 拾六町ツイジ遺跡周辺航空写真（昭和23年米軍撮影）

## 2. 第1次・第2次調査の概要

第1次・第2次調査の概要は以下のとおり。

### 【第1次調査】

城原小学校建設に伴う調査

調査期間：昭和55（1980）年11月～昭和56（1981）年7月

調査面積：8,000m<sup>2</sup>

調査概要：台地部と低地部に弥生時代から古代にかけての遺構を検出した。遺構としては土坑や杭列、

水田面など。水田の時期は古代である。出土遺物としては包含層などから多量の木製品が出土

した。

### 【第2次調査】

城原公民館建設に伴う調査

調査期間：昭和60（1985）年7月25日～8月20日

調査面積：220m<sup>2</sup>

調査概要：第1次調査区に続くと思われる杭列で、時期は弥生時代から古墳時代頃と思われる。



Fig4 調査区から北を臨む（南から）

## 第3章 調査の記録

### 1. 調査の概要 (Fig.1・4~6)

調査地は城原小学校南西側に位置する。第1次調査区グリッドのD~F-5~6区に当る。現状は小学校造成で厚く盛土されていた。標高は上面で5.2m前後、遺構面で3.5m前後を測る。遺構面までの堆積土は1.7mほどの盛土と埋立て土である。旧耕作土は工事で撤去されたらしく、遺構面上はキャタピラ痕などが残っていた。この遺構面は第1次調査区E・F-5区東壁土層図の青灰色粘土層にあたる。調査対象地は南北に長い形状であり、また調査区中央に水道管や排水管など地下埋設物などが縦横に入っており、それを撤去、切り替えなどを行いつつの調査となった。また調査区北西側には旧建物の大きな基礎搅乱がある。

調査は安全対策など条件整備が整った、平成20年8月4日から開始し、8月25日まで行った。

### 2. 調査の記録

#### ① 遺構面の調査 (Fig.7~9)

調査は掘削した面が比較的硬く安定していた面だったので、一応遺構の有無を確認するため、精査した。精査の結果、明瞭な遺構は確認出来なかつた。この面までの埋土は埋立て土であった。ただ埋立て土内には遺物が入っており、図化出来たものは参考資料として報告する。

#### 埋立て土出土遺物 (Fig.16・17) 現代にいたるまでの各時代の遺物が含まれていた。

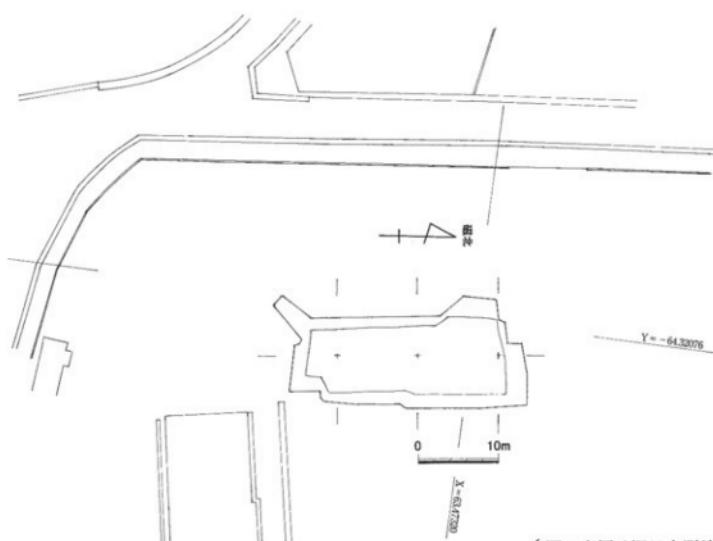
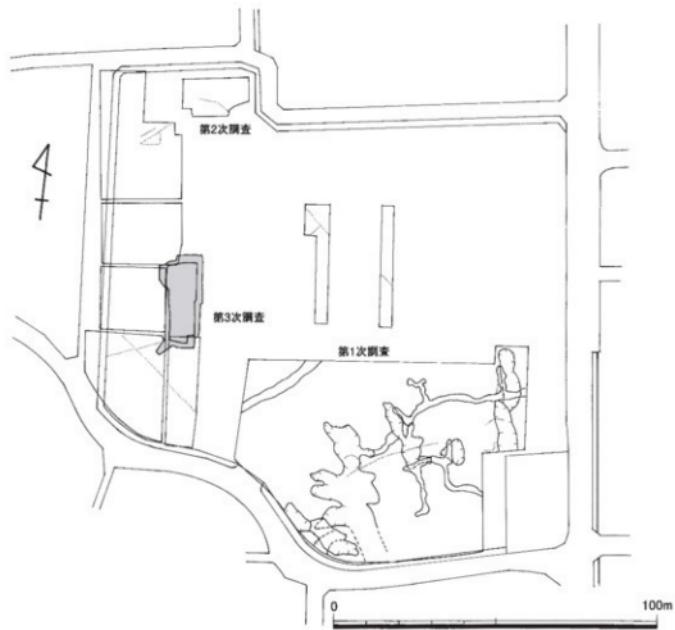
1・2は弥生土器。**1**は中期の須玖I式の甕口縁部。復元口径約33cmを測る。器壁の摩滅がひどく調整は不明。色調は灰黄色を呈し、胎土は3mm以下砂粒を多く含む。**2**は甕底部。復元底径11cmを測る。器壁の摩滅がひどく調整は不明。色調は浅黄橙色を呈し、胎土は2mm以下砂粒を多く含む。**3**は手握のミニチュア土器鉢。復元口径3.6cmを測る。器壁は摩滅するが指押え痕が残る。色調は灰黄色を呈し、胎土に4mm以下粗砂粒を多く含む。**4**は把手。断面は扁平で、断面径0.8×1.4cmを測る。色調は灰白色を呈す。胎土は精良。焼成は不良。釉薬が剥げ落ちた陶器の可能性がある。**5**は古墳時代前期の布留式土器甕口縁部。復元口径14cmを測る。器壁は摩滅するが、外面は回転ヨコナデ。色調は外面はススが付着し、黒褐色を呈す。胎土は4mm以下砂粒を多く含む。**6・7**は白磁。**6**は大宰府白磁碗V類底部。見込みは光沢のある透明な釉がかかり、色調は灰白色を呈す。外底部は無釉で露胎。胎土は精良。**7**は皿口縁部細片。大宰府白磁皿VI類のもの。内外面浅黄色釉がかかる。**8**は龍泉窯系の青磁碗口縁細片。内外面オリーブ黄色の釉がかかる。**9**は陶器甕口縁細片。復元口径15.1cmを測る。表面に黒褐色から灰オリーブ色の釉がかかる。口縁部外面は重ね焼き痕跡の砂粒が残る。**10**は白磁碗底部を再利用した瓦玉。4.4×4.5cmを測る。内外面光沢を持つ釉がかかり、灰白色を呈す。

#### ② 1号・2号トレンチ (Fig.10~16)

第1次調査区ではこの面の下に黒褐色粘質土の木器を含む包含層があったため、2か所サブトレンチを設定し、遺構の有無を調べた。

#### 1号トレンチ

調査区南側に設定したトレンチ。長さ5.3m、幅1.0m、深さ0.9mを測る。堆積土は上部から第1層灰オリーブシルト粘土（水田基盤土か酸化鉄分が沈着）、第2層オリーブ黑色粘土（流木含む）、第3層黒褐色粗



( 図の座標は旧日本測地系の座標値で、  
本市道路台帳の図に基づいている。 )

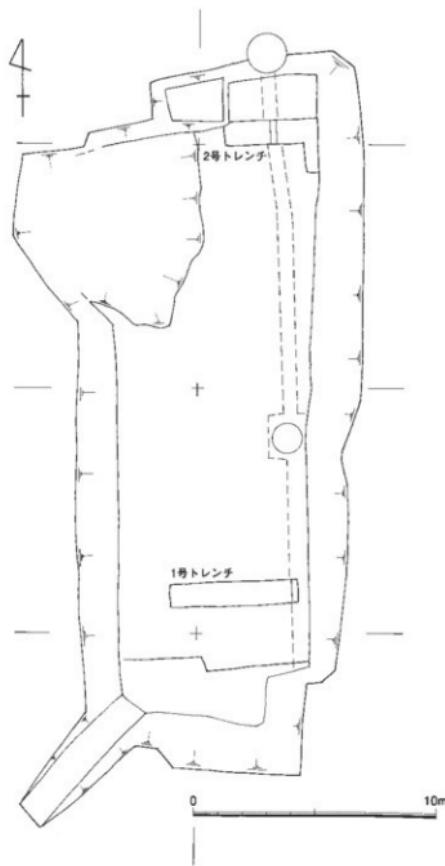


Fig.7 遺構全体図 (1/200)

砂混じり粘質土、第4層黒褐色粘土、第5層黒色粘土、第6層灰オーリーブ細～中粒砂となり、間に薄い細砂層を挟む。トレンチは氾濫原による沖積層で基盤面と考えられる第6層まで掘り下げ、掘削を終了した。

**出土遺物** 第1層と第6層から弥生土器細片が各1点出土。



Fig.8 遺構検出状況（南から）



Fig.9 遺構検出状況（東から）

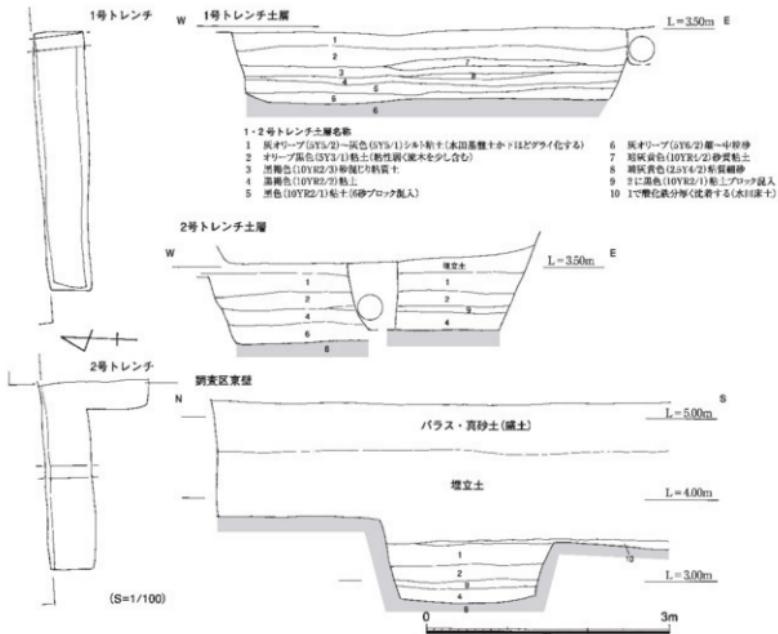


Fig.10 各トレンチ土層図 (1/100・1/60)



Fig.11 1号トレンチ (南西から)



Fig.12  
1号トレンチ土層状況（南から）



Fig.13  
2号トレンチ（西から）



Fig.14 2号トレンチ西側土層状況（南から）



Fig.15 同 東側土層状況（南から）

## 2号トレンチ

調査区北側にL形に設定したトレンチ。長さ4m、幅1m、L形に曲がった部分は長さ2.3m、深さ0.8mを測る。堆積状況は1号トレンチとほぼ同じ。小さな流木が若干出土した。

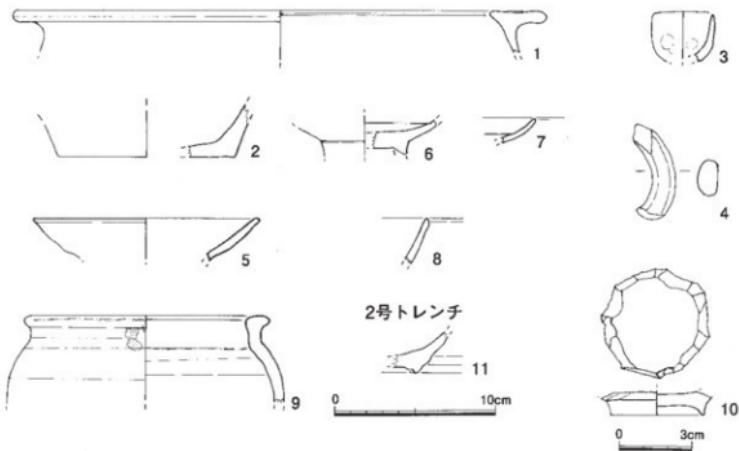


Fig.16 攪乱・トレンチ出土遺物 (1/3・1/2)

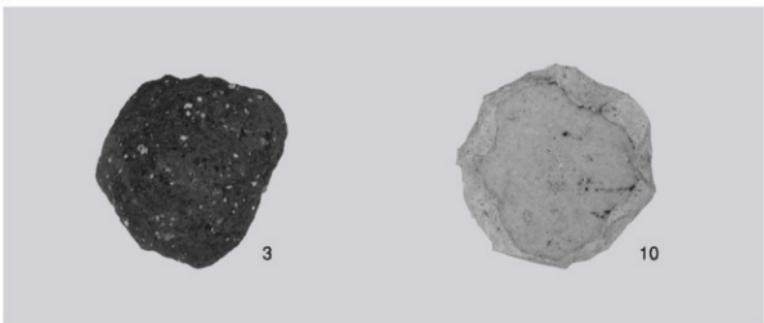


Fig.17 同 遺物写真 (縮尺不統一)

**出土遺物** 上層から混入と思われる近世陶磁器、中層から下層で古墳から古代にかけての土師器片が2点出土。**11**は上層から出土。焼きが悪いが須恵器の高台を持つ壺の底部か。色調は灰黄色を呈し、胎土に3mm以下粗砂粒を多く含む。

### 3. まとめ

今回の調査は限られた期間と狭い調査範囲であったので、その成果は充分とはいえないが、過去に行われた第1次・第2次調査の成果と合わせて考える。今回設定したトレンチ基盤の粗砂層までの堆積状況を見る限り、第1次調査の包含層と同じ堆積土ではあるものの、遺物はほとんど含んでいなかった。西隣の第1次調査区では遺構・遺物が報告されておらず、また北側第2次調査区でも時期不明の杭列が報告されているのみであり、遺構・遺物の出土

範囲は台地落ち際の南側と小学校運動場の東側に限られるものと考える。

さて、「拾六町ツイジ」という遺跡名称について少し触れてみる。『福岡県史資料』にある明治15年の字小名調では、拾六町にツイジという地名が載っており、その地名から付けた遺跡名である。ツイジは『広辞苑』によれば「土塹で、古くは土を盛り上げ固めただけのもの」と書かれている。『日本城郭辞典』でも『広辞苑』の内容に、「上世に大陸から伝來した版築技術によって突き固めた垣が後世まで伝わったもの」と追記されている。いずれにしても遺跡周辺にツイジとよばれた土塹が存在していたことが推定される。遺跡西側には城の原廃寺という古代寺院があったとされ、それに伴う築地の可能性もあるが、未調査で実態は不明であり、むしろ中世の館に關係する地名が妥当と考える。中世の拾六町一帯は山門庄に属す。山門庄は現在の下山門、上山門、石丸、拾六町、福重あたりに比定されている莊園である。中世後半の戦国時代になると大内氏の被官で、早良郡代であった大村氏などに知行が与えられる。大友氏の時代になると、早良郡を治めた安楽平城主の小田部氏などが山門庄350町の一部を領する以外は、大半が高祖城主の原田氏の所領となる。原田氏の山門村在宅の武士としては清水藤市、柴田源次郎が知られている。近くの生の松原では永禄11年と天正6年、7年の3度、原田氏と小田部氏や戸次氏、白杵氏の大友勢との間に合戦が行われた。『改正原田記』には「天正10年、早良郡中の郷入らが山門村に要害を構え立て籠り戸次道雪は同要害を攻めた。要害は陥を振り、逆茂木を結い、櫓を振り、壘を立て並べて堀となし、弓・鉄炮を緊しく放ちけるある」。これを藤木久志氏は著書『土一揆と城の戦国を行く』で「村の城」の存在を示す事例として上げている。下山門敷町遺跡、下山門乙女田遺跡では堀で囲まれた戦国時代の集落跡が調査されており、それとの関連が興味深いところである。

また遺跡西側にある長垂山には今宿青木から下山門に抜ける道で油坂という古道がある。この道は『筑前国続風土記』に載る古道であり、この油坂を東に下った窪地状の場所を鉢窪と記述している。油坂は軍事的要所で、天正7年10月の第2次生の松原合戦では、小田部氏が油坂を通って立花勢に合流し、4000人が十郎川に布陣して原田勢と戦っており、同年12月には油坂合戦が行われている。原田氏はこの戦いで勝利し、下山門一帯は原田氏の支配下に入る。天正14年豊臣秀吉は島津氏と大友氏の抗争で、救援を求める大友氏の要請に応じて九州に出兵する。原田氏は島津方につき、秀吉軍に対抗する。原田氏は攻め寄せる豊臣軍に対して、長垂山に500人、油坂に500人、日向峰に500人の軍勢を配置して小早川・黒田の大軍に備えるが、早々に油坂の防衛線を破られてしまう。このような事例から長垂山一帯が軍事的要地であった事が分かる。下山門、拾六町一帯は原田氏と大友氏の領地の境目地域であったために度々戦が起こり、それに備えるための城館が築かれていたことが考えられる。現地を歩くと油坂は険しい切り通しの所があり、また障がおかれた長垂山山頂も尾根から山頂は平坦であり、堀切や堅堀などの軍事施設は確認出来なかったが、山城であってもよい状況を示す。拾六町ツイジ遺跡の名称や城の原という地名はこのような周辺の軍事的背景を反映したものかも知れない。

#### 参考・引用文献

- 1.『福岡県の地名』日本歴史地名大系41 平凡社 2004
- 2.藤木久志『土一揆と城の戦国を行く』朝日選書 2006
- 3.丸山雍成「中世後期の北部九州の国人領主とその軌跡」『大藏姓原田氏編年史料』廣渡正利編著 文獻出版 2000

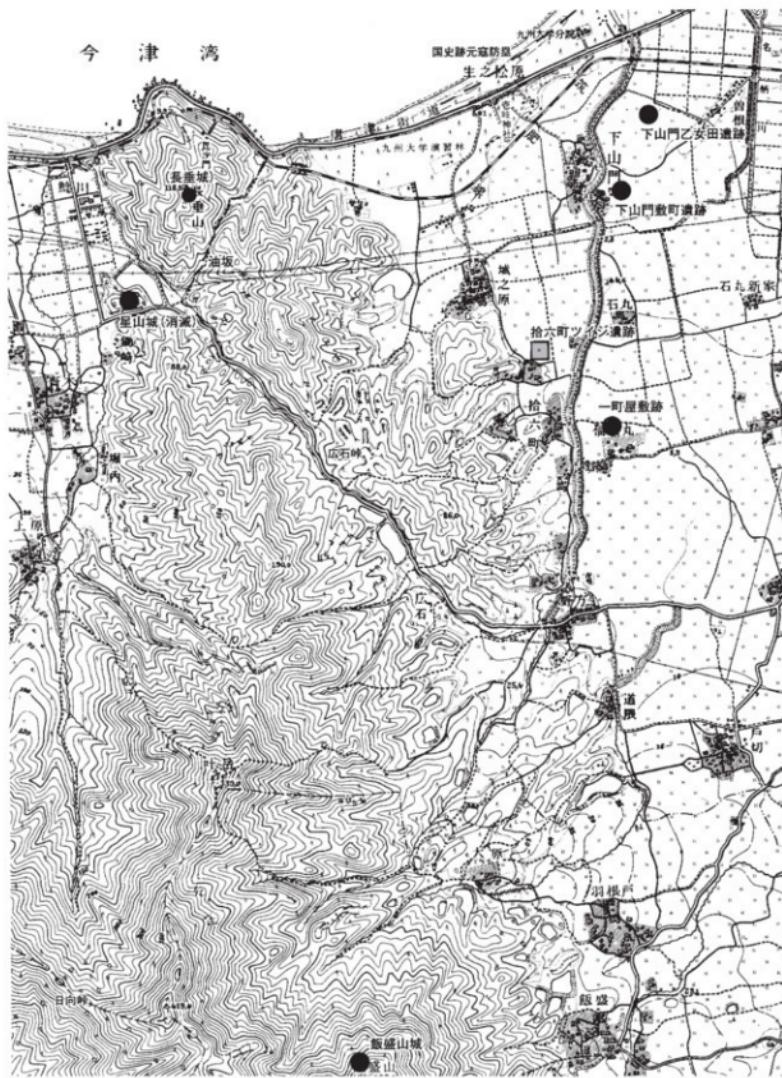


Fig.18 今宿・下山門周辺城館分布状況 (1/25,000)

## 報告書抄録

ふりがな 書名	じゅうろくちょうついじ 拾六町ツイジ2							
副書名	拾六町ツイジ遺跡第3次調査報告							
卷次	2							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	1079							
編著者名	山崎龍雄							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1 TEL092-711-4667							
発行年月日	西暦2010年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ° °	東緯 ° ° °	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
拾六町ツイジ遺跡 第3次調査	ふくおかしにしきくをみやまとう 福岡市西区上山門1丁目 27番1号	40130	2745	33° 34° 14°	130° 18° 26°	20080804~20080825	248	小学校講堂兼 体育館建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
拾六町ツイジ遺跡 第3次調査	包含層	古墳時代、古代、中世				弥生土器 + 古墳時代土師器・ 須恵器 + 中世輸入陶磁器		
要約	第1次調査と同じ包含層を確認したが、土器や木器などの遺物の出土はなく、第1次調査西側の調査成果から考えて、調査区は遺跡の範囲からはずれていると思われる。							

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1079集

## 拾六町ツイジ2

— 拾六町ツイジ遺跡3次調査報告 —

平成22年3月23日

発行 福岡市教育委員会

福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 有限会社 アートプロセス

福岡市南区高木二丁目8番7号